

第24回福島県「県民健康調査」検討委員会傍聴記、他

(2016.9.24「放射線被ばくを学習する会」学習会@茗台、報告者：栗原)

1. 学習する会パンフ「福島の甲状腺検診を縮小??」配布行動。
 - ・会場玄関前で傍聴者、マスコミ、検討委委員らに配布した(12:30~13:10)。(会館側からは目立った規制はなく地元福島市のNPOの2名も機関紙を同時配布)。
 - ・委員の清水修二氏(福島大)、床次眞司氏(弘前大)らも受け取る。
 - ・アワプラ白石さんいわく「委員会始まって以来初めて」。
 - ・会場内でも近隣席の傍聴者らに配布。
 - ・全部で125部配布。
2. 会場内の様子
 - ・一般傍聴席60席はほぼ満席(熱気、高い関心)。
 - ・マスコミも多数(固定映像カメラ5、6台、テレビカメラクルー2、3社)。
 - ・途中拍手やヤジ(拍手は清水一雄委員、春日文子委員の検査継続意見へ、ヤジは福島医大大平論文説明の安村教授らへ「デタラメ言うな」)。
 - ・傍聴者のなかに甲状腺がん患者の祖母と思われる方(ロビーでマスコミ1社が取材)。
3. 検討委終了後の記者会見
 - *今回は特に検討委(星座長ら)とマスコミ記者とがぶつかり合ったという感、強し!
 - ・マスコミの星座長(および県、医大)への不信感。
 - (1) すわっ!「縮小論」論議
 - ・報ステ平野記者「縮小論議論の『着手』なのか!」「本格調査まだ途中なのに」ⁱ
「8・8民友の小児科医会会長意見(不利益、縮小)記事がすべてのきっかけだ」。
 - ・星座長回答ⁱⁱ「縮小は言っていない」「拡大も含めた見直しの議論を」
 - (2) 星座長のマスコミ対応批判
 - 朝日、報ステ、中日(東京)記者の「なぜ取材を拒否した?!」
(地元紙民友、地元民放FCTと朝日、報ステなどへの対応の違い)。
「都合のよい質問には答えるが・・・」「家族会の質問に答えていない。」
 - (3) 「甲状腺検診」書類内の「受診をお勧めします」文言削除ⁱⁱⁱ
誰の指示か?なぜ削った?(県が検討委の承諾なしに文言を変更してよいのか?)
 - 県担当者(県民健康調査課・小林課長)は削った理由は最後まで答えず。
(OurPlanet TVのYouTube「記者会見部分」19:34~33:05参照:ML13535)
 - (4) 大平教授らの福島医大論文採用(2016.9.12新聞発表^{iv})
 - ・論文紹介に不公平感あり!偏っていないか(津田論文は未紹介)。
 - (5) 他の意見、質疑
 - ① 2巡目の評価部会はいつ開かれるのか→清水一雄・前部会長「(個人的意見だが)時期尚早」。
 - ② 妊産婦調査^vで「肺炎入院の乳幼児162人」の要因、評価は?

4. 検討委内での委員の発言^{vi}

縮小論に関して

「縮小論」に関する意見・・・「検査継続」支持意見多数（両清水、春日）

- ・ [星座長スタンス表明](#)（OurPlanet TV「甲状腺検査に関する委員の意見聴取」2:11:20～2:13:06）
- ・ [清水一雄](#)（同 2:13:06～2:16:00）

「まだ5年半、（チェルノブイリでは）5年以降に増えている。これからしっかり検査する必要あり」「少なくとも最低でも10年は縮小はない」「放射線の影響とは考えにくいという報告をしたが、いまは放射能の影響ではないかなという懸念というか、考慮に入れながら検証を進めるべき」

- ・ 清水修二

「『甲状腺通信（第6号）』に関して）2巡目の検証が途中なのに「心配しないでいい」はフライングだ。これからが重要」「この検査は歴史的な意味がある。データが少ないのではダメ。この検査の信用を落としてはダメ。」

- ・ 春日文子・・・「過剰診断論（受診者の不利益あり）」

「今後、10年後、15年後と長く見ていかないとよくわからないはずだ」

5. 寄せられた「県民の声」（電話・メール等）（資料7）

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/kenkocyosa-kentoiinkai-24.html>

○甲状腺検査に関する意見が多数寄せられている。

（対象者、検査体制について）

- ・ 大人にも通知を出して検査を推奨するべき。
- ・ 19歳以上の進学等のために県外へ転出した対象者に対して、もっと受診を促すべき。現在の対応では足りず、受診率が低下していくのは見え見えだ。
- ・ 成人後も2年おきに検査を実施して欲しい。
- ・ 県外での検査は施設と曜日が限定されており、土日の検査も少ない。いつでも受けられるようにして欲しい。
- ・ いつまで検査を続けなければならないのか、いつになったら大丈夫だと判断できるのか。
- ・ 関東も放射性物質が多く飛んでいるのだから、他の地域も検査をするべき。
- ・ 原発の放射線の影響がないところの子どもとの比較を発表して安心させて欲しい。

（放射線の影響評価について）

- ・ これだけ甲状腺がんが出てきているのに、「放射線の影響は考えにくい」というのはおかしい。
- ・ 放射線の影響はないと言っているが、悪い方に考えて県民を守るのがあなたたちの仕事ではないのか。放射線の影響を念頭に置いてやらなきゃ駄目だ。
- ・ 「放射線の影響は考えにくい」ではなく「分からない」とするべきではないか。
- ・ 「影響がない」という結論を先に決めているのだろう。結論ありきだ。
- ・ 放射線の影響は考えにくいと言うが、では見つかっている甲状腺がんは何が影響しているのか教えて欲しい。原因が分からないのに否定的な物言いをするのはおか

しい。

- ・ 初期被ばくのちゃんとした測定もせず、チェルノブイリとの比較や地域差がないことだけで「放射線の影響とは考えにくい」と書くのは恣意的。見直してもらいたい。

地元（郡山）の二氏（フクシマンマサさん、「311甲状腺がん家族の会」世話人武本さん）との対話

○武本さん

1. 被害者家族会について
 - ・ 家族会以外の家族間の横のつながりが弱い（孤立）。
 - ・ 家族会代表が県に要望書、質問状提出できたことはよかった。
 - ・ **患者当事者（10代）の手記**・・・「しっかりしている」（下記）。
2. 18～23歳の甲状腺受診率・・・これだけ「安心、安全」を言われたら受診率も下がる。
 - ・ ただし本人の意思決定は重要。
3. 地元紙（民友、民報）は正しい情報を載せていない（偏向報道である）。
→運動として「不買運動」が必要だ。
4. 医者、医学者の倫理性欠如（福島医大の大津留、安村教授など）・・・大平論文に関して。

《「311甲状腺がん家族の会 <http://311kazoku.jimdo.com/>》

◆10代の患者本人

私は十代の学生です。約三年前に「甲状腺がん」と宣告され 覚悟の上手術を受けました。切ってしまうと予後の良い病ですからと軽く扱われ、結果リンパ節にまで転移していました。検査「縮小」になるなんて考えられません。なぜリンパ節にまで進行したのか調べて教えてください。

◆事故当時10代患者本人

チェルノブイリの原発事故におけるデータでは、甲状腺癌は事故から5年たったあたりから急激に増え始めている。そのようなデータがあるにもかかわらず、その節目である5年目になぜ検査の縮小を進めるのか。また原発事故によるデータは世界でも乏しく、福島原発事故は世界で二例目となる。データが重要になっている今、このような検査縮小を進めることはかなり危険な行為であり、まずはしっかりとした体制で検査を行い、手術を控えている方や手術を終えた方など 状況に合わせたサポートを行う体制をしっかりと作ることが優先ではないかと思います。

○フクシマンマサさん

1. 今、やろうとしていること

- ・地元のお母さんたちが「放射能」についてもっと語り合い、考え合える場を作りたい。

(専門家同士の議論の場に居合わせたお母さん方が引いてしまったという体験で反省)

- ・安全側、危険側の両方の意見を聞いて（読んで）意見を述べ合う場をつくった（ML13462「お母さんたちの声」甲状腺検査縮小）参照）。
 - ・今回の学習会パンフをお母さんたちにそのまま渡しても読んでもらえないでしょう。
2. 「被害者家族会」（3 1 1 甲状腺家族の会）ができた意義の大きさ
- ・県あてに意見書（要望書）を提出したことがとても大事、「よかった」。
3. 今後、子どもを対象にした仕事に就くので、お母さん方以外にも子どもにどう伝えていくかの企画を考えていきたい。

○同席した40代女性

1. 放射能のことは話せない（職場の人と）。
2. パンフをそのまま渡しても読んでもらえない。

↓脚注

i 報ステ・平野記者の質問（縮小を含む見直し論議について、OurPlanet TV では抜けています。IWJ で）

「星座長として（見直し）議論はきょうは結論は出さないと。こういう議論は避けなくて今後もしつづけると、今後やらない訳ではないと。」・・・そして・・・

「小児科医会の、デメリットがあるから検査を受けない自由という選択肢があるという意見を受けて縮小も含めた今後の見直しについての議論が始まったというのは間違いありませんね？」

「確認したいのは、きょうの検討委で縮小も含めた今後の検査の見直しについて話し合いが始まったのか？」

ii 星座長の回答

（会見冒頭の朝日・本田記者の質問への回答）

「私は（地元紙で）縮小という話は一言もしていない。20歳以上や7歳未満の受診率が低いので今後どうするか。また、私は学術的に無理矢理にでも本人の意思に反して検査を強行すると言っているのではない。ただそれだけです。」

「別に、縮小ともなんとも言っていないのですが・・・」

「（縮小論に関して）いろいろな団体からいろいろな要望がありまして、様々な意見、私もいろいろなインタビューを受けまして、誤解されて書かれて・・・」

（星座長の報ステ平野記者への回答ココから）

「縮小というのはひとつの選択肢なんでしょう。時期はわかりません。縮小というのは・・・、もしかすると見直しという中には「拡大」というものもあるでしょうし（何を拡大し、何を縮小するのかという話はあるけれども）、そういう意見が出てきたので皆さんどうですかと」・・・

「すぐに見直し議論に着手すべきかどうかという点に関しては、各委員の意見は、あまり積極的な答えとは理解していません」

「みなさんの意見を踏まえて今後、（聴取不能）巡目の結果の評価を見ながら・・・そして（聴取不能）与えるという影響を指摘されている小児科医会も独自の議論を開始されると聞いているので、そういった議論やもちろん拡大を求める意見もありますから、そういう意見を聞きながら今後考えていこうと・・・」

「だから縮小も含めた議論の見直しに着手したかというと、たぶん着手したということではないだろう。」

「・・・議論が始まったといえば、始まったのか？」

「この議論は、私は当初から様々な意見（縮小、拡大）があることは知っている。・・・ここでまた小児科医会の象徴的な意見が出てきたので問いかけた（だけ）・・・」

iii フリーランス・豊田監督の質問（「受診の勧め」文言削除問題）

「（先ほどの検討委では）「見直し」が縮小、拡大、まだわからないけど、あり得ると。」

・・・しかし・・・

「もう既に県は受診予定者に、受診を勧めるという表現から、受診しなくてもいいよという表現に具体的な見直しが始まっていますよね。」

「先ほどの検討委は、7歳までの子供たちの受診率をどうやって上げるのか、20歳以降の学校を卒業しちゃった子どもたち（成人）をどうやってフォローアップしていくのかという、むしろ受診率を高めるような拡大の路線だろうと受け取った」・・・しかし・・・

「県と医大の通知（理事長名）は、むしろ縮小を促すような表現「受けなくてもいいよ」というように取れる表現で出している」・・・それならば・・・

「検討委として、これは間違いではないかと、むしろ積極的に受診を勧めるような表現に改めるべきではないかと、県、医大に出していくことは考えていないのか？」

（星座長の回答）

「受けなくてもいいよということ積極的に言っているとは認識していない」・・・それと・・・
「中間とりまとめの中でも、やり方を変えるとか、縮小するとか拡大するとか言及していない。そう言う意味では変わっていない」

（豊田監督、朝日・本田記者）

「検討委員会は全然この文章の変化には関わっていないですよ。だったら県の方に説明していただいて、それについて座長や検討委員の方がどう思っているのか・・・」

「行政（県）が独自に（勝手に）表現を変えてるんだから、削った根拠を教えてください」

「文章の表現が具体的に変わっている訳ですよ。」

「『同意書』から「受診をお勧めします」という文言が削られた根拠、・・・県が関わっているんですよ。」

「受診率を上げるという方針が変わったのか。」

また

「不利益というのは‘検査’を受けることの不利益か？不利益に感じるという‘情’の部分ですよね」

（県担当課長）

「今回の文言を変えたということについては‘受けなくてもいい’と言って通している訳ではない。県は引き続き検査を推奨している・・・。そのうえで表現を変えたんです。」

「中間とりまとめの提言の中でも、甲状腺検査を受けてしっかり不利益もあり得るんだということちゃんと県民に説明すべきだということで、医大の方で案を作りまして、県も了承して・・・」

iv 論文の記事掲載が重要？（「地域差なし」を県民に浸透させるのが目的？）・・・報告者意見。

v H22. 8. 1～H24. 4. 8 に出産した人対象（回答者 2, 554 人）。回答期間は H27. 9. 14～H28. 5. 31

vi 委員の発言回数

清水修二（6回）、春日文子（5）、清水一雄（4）床次眞司（3）、稲葉俊哉（2）、梅田珠実（2）、高村昇、他委員（1）、明石真言（0）